

「職業化をめざすために必要な勤労態度の育成」

— バザー作品の製作を通して —

高等部 女子

1 主題設定の理由

(1) 1年生3名、2年生1名計4名の女生徒は、1学期に電動ミシンを使って、夏用パジャマを縫ったり、手縫いの小物入れを作ったり、フランス刺しゅうの基礎縫いや、刺し子のバッグの製作などの学習を体験している。作った作品はすべて個人所有の物であり、生徒達一人ひとりが好きで欲しくて作った物ばかりである。学習の過程で習得されたものは、技能的、知識的な要素が強く、態度的な面では、自分の物だという甘えから、「道具や製品を大切にする。」「きまりや諸注意を守って安全に気をつけて作業をする。」などの職業化をめざすための態度育成につながらない点がみられた。

(2) 作品を作る過程において、根気強く作業をする態度は各生徒にみられたが、その原動力となったのは、あくまでも自分のためであり、好きな物を作ること、作業そのものが好きであるからこそ根気強く作業が行えたということができる。生徒達にとって、作品を作ることは自分の楽しみでしかなく、働くこととは考えていない節がみられるのである。

作った作品は生活の中に生かし使えるものであることに違いはないのであるが、その生活そのものが、自分の回りだけの生活にとどまっているのである。これらのことを土台として、より広い生活の場へと広げたいと考えた。

(3) そこで、バザー単元を設定し、他人に売る商品の製作を通して、職業生活への参加に必要な勤労態度の育成を図るという主題を設けた。究極的にはただ根気強く作業できるというだけではなく、「自分の仕事がわかって、最後まで根気強くやりとげる。」ことができ、加えて「ていねいに作る。」「早く作る。」「失敗しないよう注意力や集中力を働かせる。」などの態度育成をめざして取り組んだ。

2 主題に対する生徒の実態と目標

生徒名	技能面の実態	主題に対する実態	個人目標
S子 (1年)	・手縫いはできないので補助を受けながらミシンで直線縫いをする。	・1つの作業を長く続けることができない。 ・道具や製品を乱暴にとりあつかうことが多い。 ・気に入った作業ならマイペースで気のむくままに行う。	・指示された作業を根気強く最後までがんばる。 ・道具や製品をていねいにあつかうように気をつける。 ・なるべく早く作業をするようにがんばる。

生徒名	技能面の実態	主題に対する実態	個人目標
S (1年 子)	<ul style="list-style-type: none"> 印どおりには切れないが、大ざっぱにハサミで布を切ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業を失敗しないようにしようという意識がみられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 失敗しないように気をつけなければならないことを知る。
A 子 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> 視力が弱い、針に糸を通して、フランス刺しゅうのアウトラインステッチができる。 電動ミシンを使って、印をつけたところをまっすぐに縫うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> やり方がわかれば根気強く作業できるが、失敗すると、かんしゃくをおこす事がある。 視力が弱くてみにくいためか、雑な作業になりがちである。 早く能率よく作ろうという意識がなく、マイペースで作業をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた仕事に責任をもち、最後まで根気強くやりとげる。 ていねいな作業をするように気をつける。 失敗をしないように気をつけて、能率よく作業をしようとする。
N 子 (1年)	<ul style="list-style-type: none"> フランス刺しゅうのアウトラインステッチ、サテンステッチや、クロスステッチができる。 電動ミシンを使って、印をつけたところの直線縫いやカーブ縫いができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 気に入っている作業なら、根気強く最後までやりとげることができる。 非常にていねいな作業を行うことができる。 時間など全く考えず、マイペースでゆっくり作業をする。 気に入った作業なら、集中して注意深く行える。 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた仕事に責任をもち、すねないで最後までやりぬく。 早く作業をする必要性がわかり、がんばろうとする。 気に入らない作業でもがんばって失敗しないように注意できるようになる。
M 子 (2年)	<ul style="list-style-type: none"> 刺し子、フランス刺しゅうのアウトラインステッチ、サテンステッチ、チェーンステッチができる。 電動ミシンや足踏みミシンを操作して、指示されたところが自分で縫える。 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲は充分に有しているが気が散りやすく、根気強く作業をすることができない。 量産を急いだり、点検をしなかつたりするので、雑な仕上がりになりがちである。 他からの刺激にすぐ反応をするために、作業に集中できない面がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 責任をもち、根気強く最後まで仕事をやりとげる。 製品をていねいに、きれいに仕上げることができる。 他のことに気をとられないで、失敗しないように気持ちを集中して注意深く作業ができるようになる。

3 取り組みの経過

(1) 11月中旬に学習発表会が予定され、その日の昼休憩にバザーが開かれることになった。農園の収穫物と共に、高等部女子の家庭科作品を販売するのである。

高等部女子4名は、それぞれに1学期に習得したフランス刺しゅうやミシン縫い等の知識や技能を活用し応用して、バザー作品を作ることになった。今までは各自マイペースで、自分の物を楽しみながら作っていたのであったが、今度はみんなに喜んで買ってもらえるものを作ろうという目的意識をもって、取り組むことにした。

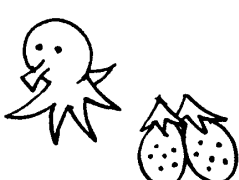
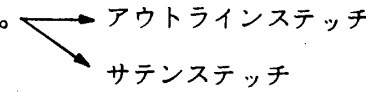
(2) バザー作品は、商品価値があるものでなくてはならない。すなわち、買う人の購買意欲をそそるものでなくてはならない。そして、生活に必要なものであり、価格が妥当で容易に買えるものでなくてはならない。これらの条件を満たすものであって、生徒の今までやってきた技能を生かせるもので、何を作って販売すればよいのか。生活の中からヒントを得て生徒たちが考え出すことが、より生活に密着した表現活動になると考えた。

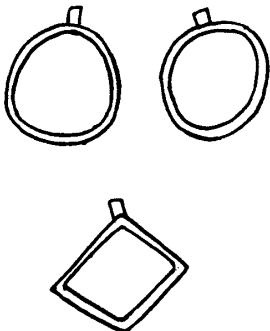

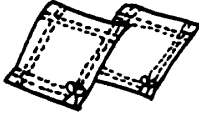
生徒たちが生活の中からヒントを得て考え出したものは次の通りである。

- さらにワンポイント刺しゅうをしたふきん ○ 刺しゅうしたナプキン
- 刺しゅう入りのれん ○ 刺しゅう入り化粧ケープ ○ なべしき
- なべつまみ ○ ぬいぐるみ ○ クッション

これらはいずれも、1学期に習得した技能を習熟することによって、できるものばかりである。

(3) 作品とそれに必要な技能・指導の重点

作 品 名	必 要 な 技 能	指 導 の 重 点
<p>ワンポイント刺しゅう (ナプキンやのれん、化粧ケープもワンポイント刺しゅうに準ずる。)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふきんを必要な長さに切る。 ・図案を決めてかく。 ・一色の糸でワンポイント刺しゅうをする。 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 20px;">  </div> ・縁を三つ折りにしてしつけ縫いをする。ミシン縫いの後でしつけ糸を抜く。 ・ミシン縫いをする。 ・アイロンをかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料や作品を汚さないようにていねいに扱う。 ・長時間、同じ作業を根気強く最後までがんばる。 ・失敗しないように注意する。 ・必要なこと以外はしゃべらずに黙って作業する。




作 品 名	必 要 な 技 能	指 導 の 重 点
<p>なべつまみ なべしき (一番数多く作る。)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 型紙を作る。 • キルティング(布)に型紙を置き印をつける。 • 印通りにはさみで切る。 • バイヤステープで縁をくるみ、しつけをする。 • しつけ通りにミシンで縫う。 • しつけ糸を抜く。 • アイロンをかけて仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 規格通りの作品を作る。 • 量産をめざして分業にし、協力して作業に取り組む。 • 指先に精神を集中し、切りまちがいや縫いまちがいをしない。 • 根気強く長時間の作業に耐える。 • 早く能率よく作業する。
<p>くまのぬいぐるみ (余りぎれや不要になったボタンやリボンを利用した。)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • 中に入れる布を細かくはさみで切る。 • 型紙を作る。 • 印をつけて型紙通りに布を切る。 • 布を中表に合わせてまち針でとめ、ミシンで縫う。 • 鼻の部分を表布に合わせてまち針をうち、かがり縫いをする。 • ④の部分をアウトラインステッチで刺しゅうをする。 • 中に布ぎれをつめる。 • つめ口をぬい、形を整える。 • 目の部分にボタンをつけ、首にリボンをつける。 	<ul style="list-style-type: none"> • 根気強く布を細かくはさみで切る。その間、黙って作業をする。 • 指導者の指示に従って型紙を作る。 • 正確に、切りまちがえないよう注意する。 • 指先に精神を集中して作業する。 • 細部までていねいに作ろうとする。 • かわいい作品に仕上げようとする。
<p>クッション (ひもを通し、中にスポンジを入れるもの。S子のみが行う。)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> • フェルトの穴に正確にひもを通す。 • ひもが抜けないように一方を固定する。 • 通ったひもを蝶々結びにする。 • 中にスポンジを入れ、形を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> • 根気強く作業をする。 • 穴に入れまちがえないように注意する。 • 指導者の指示に従って、最後までがんばって行う。

刺しゅうを生かした作品、なべつまみ・なべしき、くまのぬいぐるみは、4名全員ができるところを受けもって作業したが、クッションのみはS子にさせた。このクッションは、S子に正確さや根気強さ、責任感などの勤労態度を育成するのに適当だと考えたからである。

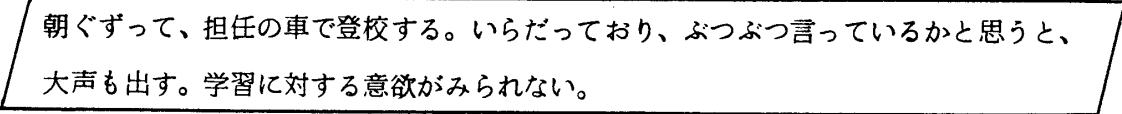
- (4) 次に、障害の程度が4人の中で最も重く、勤労態度の面でも問題の多いS子の作業について取り上げてみたい。S子は脳性麻痺の障害をもち、そううつ病の傾向が認められる生徒である。日頃から、行動を起こすのに時間がかかるし、うつ状態になると、何をするのにも気が乗らなくなる。また両手で物を握ったり、押さえたりする力が弱く、技能面・知識面でも他の3名に比べて問題が多い。

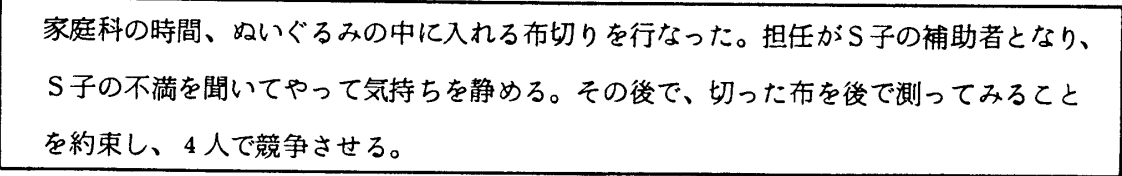
S子については常に1人の指導者が補助をし、目を離さないようにして、ミシン縫い、布切り、アイロンかけ、布をたたむ等から整理・整頓までいろいろなことをさせていった。

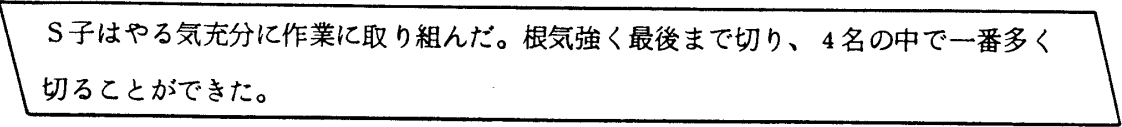
S子の作業の様子について、個人記録より抜粋してあげてみる。

※  は指導前のS子様子、 は指導したことから、 は指導後のS子ようすである。

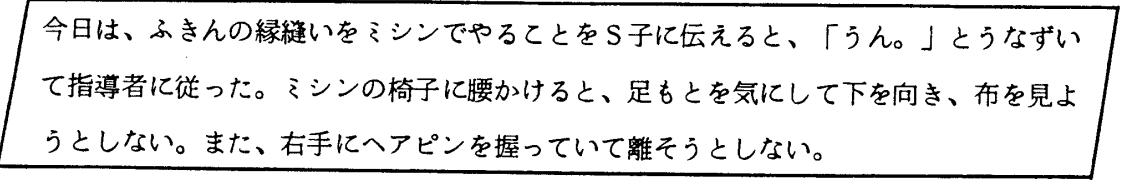
— 9月27日(土) —

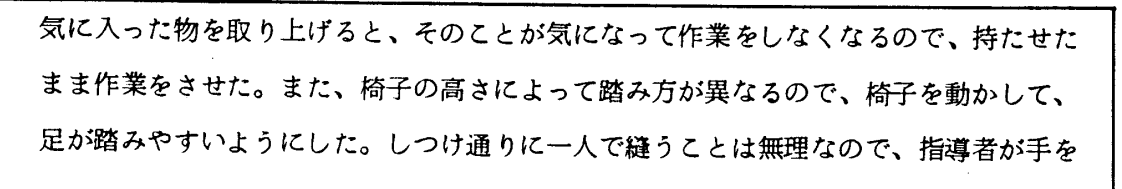
 朝ぐずって、担任の車で登校する。いらだっており、ぶつぶつ言っているかと思うと、大声も出す。学習に対する意欲がみられない。

↓
 家庭科の時間、ぬいぐるみの中に入れる布切りを行なった。担任がS子の補助者となり、S子の不満を聞いてやって気持ちを静める。その後で、切った布を後で測ってみることを約束し、4人で競争させる。

↓
 S子はやる気充分に作業に取り組んだ。根気強く最後まで切り、4名の中で一番多く切ることができた。

— 10月4日(土) —

 今日は、ふきんの縁縫いをミシンでやることをS子に伝えると、「うん。」とうなずいて指導者に従った。ミシンの椅子に腰かけると、足もとを気にして下を向き、布を見ようとしなない。また、右手にヘアピンを握っていて離そうとしなない。

↓
 気に入った物を取り上げると、そのことが気になって作業をしなくなるので、持たせたまま作業をさせた。また、椅子の高さによって踏み方が異なるので、椅子を動かして、足が踏みやすいようにした。しつけ通りに一人で縫うことは無理なので、指導者が手を

添えて縫わせた。



S子はふきんの縁縫いを6枚もすることができた。6枚も縫えたことに自信をもち、「休もう。」と言っても、「もっとする。」と言って、他の作業もがんばった。

— 10月6日(月) —

クッションのひも通しをさせたが、ひもを引っぱって引き抜いてしまう。



何度やってもひもを引き抜いてしまうので、大きなひも通しの穴にフェルトのひもを通させ、「できた、できた。」とほめて、やる気を喚起させた。また、ひもの片方を針でとめさせるとうまくできるようになった。



ひも通しがスムーズにできたことに自信をもち、続けて作業に取り組んだ。

この後で、布切りを行ったが、途中「ああ、疲れた。」「トイレに行ってくる。」と言う。かせ気味でのどの痛みを訴えるので、無理をさせないでゆっくりやらせた。

— 10月22日(水) —

くまのぬいぐるみに、切った布ぎれをつっこみ、えんぴつで押しこんだ。奥の方や細部へつっこむことがなかなかできない。



指導者が何度もS子の目の前でやってみせたり、S子の手添えて一緒にやってみせたりした。



初めて、ぬいぐるみの耳の部分に、自分一人で布ぎれをつめこむことができた。皆の前でそのことをほめると、「次時もやってみる。」という言葉が聞かれた。

以上、S子の場合について、指導したことやS子の様子について取り上げたのであるが、S子の4つの個人目標に対し、わずかではあるが近づきつつあると思う。

- (5) 11月18日の学習発表会の当日には、短い休憩時間を利用してバザーを開いた。指導者、生徒ともに忙しくて、全員が販売に当たれなかったが、父兄や参会者の方々に、製作した作品を多く買ってもらうことができた。次にバザー作品についての2年生M子の作文を掲げる。製作した過程や販売した時の気持ちが率直に述べられていると思う。

バザーさくひん

高等部 二年 M 子

わたしは、ミシンをつかって、なべつまみをつくりました。

いちばんむずかしいかったのは、はしみしがむずかしかったです。

さし子は、あんまりむずかしくなかった。

くまさんのなかみをつくりました。

きれをきって、はさみできりました。

わたしは、いろいろな、さくひんをつくるのが大好きです。

バザーは、たくさんのふけいのひとがたくさんかいてこられて、とってもうれしかった。

一ばんよくうれたのは、なべつまみです。

人形もよくうれました。

わたしは、

こんなになれるなんてうれしかったです。

4 まとめと考察

1年生女子3名と2年生女子1名、合わせて4名はあと1、2年で社会へ出ていくのである。そのことを前提にして、いかに職業生活へ参加するのに必要な勤労態度の育成をしたらよいかを問題にしたわけである。

バザー単元を取り上げて勤労態度の育成をねらったことは、各個人の技能や興味などの実態に合わせて製品が選べ、結果として意欲や態度の育成につながったと思う。単元の始めに、バザー作品を作るのだという目標をもたせ、個人毎に目標を設定し、毎時間目標をもたせて作業にとりかからせ、作業の後で、作業点検表にシールをはらせていった。こうしたことも生徒の意欲向上につながり、態度育成の上でも好結果をもたらしたと思われる。

しかし、勤労態度の育成をねらい、個人目標を設定はしたが、その達成度をみる観点としては評価表を作成する必要があったと思う。今回は毎時間の作業のチェックとして簡単な作業点検表を作成して、それなりの効果はあったが、個人目標の評価として別のものを考える必要があると考える。今後の課題として評価表の作成に取り組みたい。

また、バザー単元の学習を進めていく上で、「早さ」「ていねいさ」「注意力」「集中力」「根気」「協力」などの態度をより強化していくとするならば、今回の製品をより絞るか他の製品を考えて、分業化や流れ作業システムを作り、量産・規格化を図る必要があるではなかろうか。

最後に、今後ともバザー単元を構成していくとすれば、今以上に他教科との関連を図っていかねばならないと考える。他教科との関連を図り、発表・会話・数量・図案等表現分野と密接に関連させ、バザー単元の強化拡充をしていく。こういったことにより、生徒は意欲や自信をもって作業に向かい、勤労態度の育成を押し進めることにつながると考える。